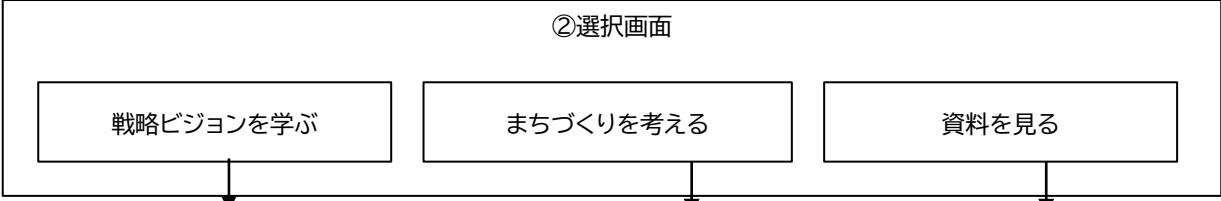


サイトマップ(案)

※サイトマップ案は現時点での案であり、今後、打ち合わせの中で変更する可能性がある

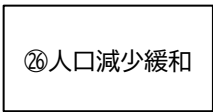
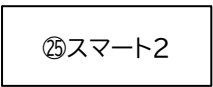
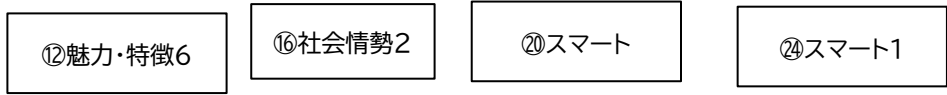
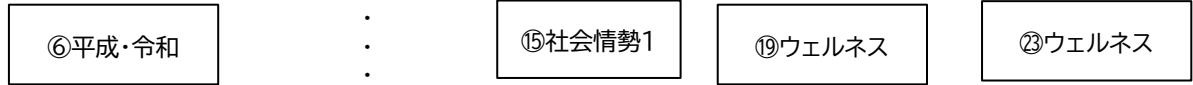
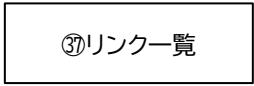
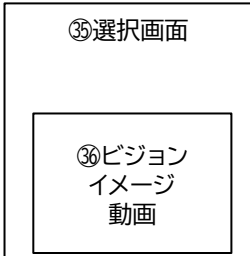
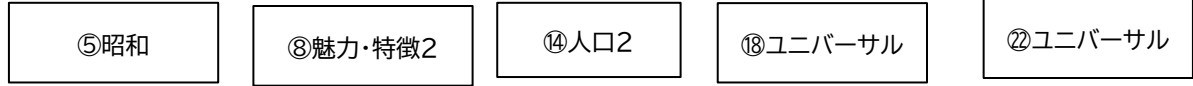
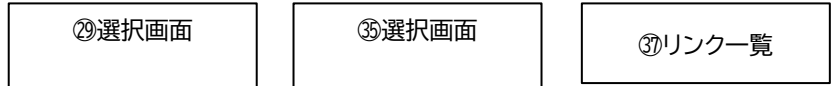
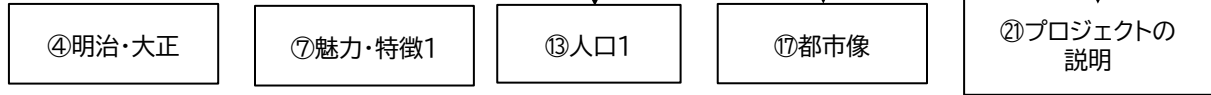
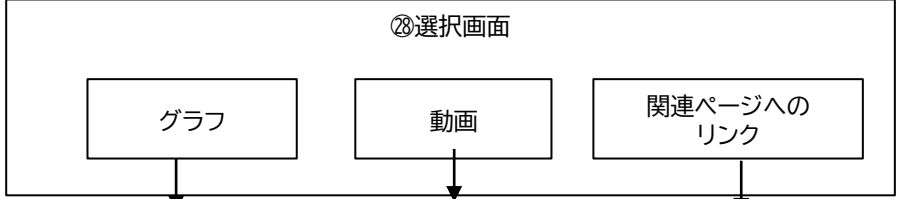
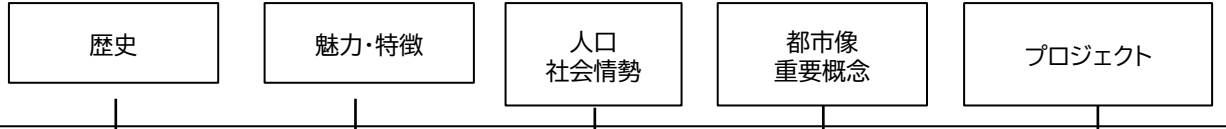
①トップページ



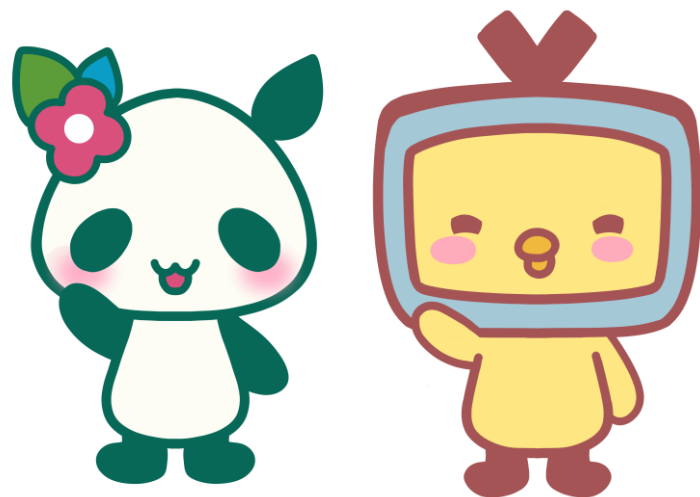
③選択画面

⑦レポート作成の
説明

⑧選択画面



第2次戦略ビジョンを学ぼう！（仮）



トップページなので、なるべく固くせず、
楽しそう、面白そう感を出す

始める

歴史(ビジョン編6～8ページを要約)

第2次戦略ビジョン「ビジョン編」はこちら↓

<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/vision2/documents/visionhenn.pdf>

1 札幌市の歴史

札幌市は、自然の恵みと共に暮らしてきた人たちと、日本各地から移り住んできた人たちが、それぞれの伝統と文化を紡ぎ、育みながら、外国の先進の英知を取り入れ、世界的な大都市へ発展的な発展を遂げてきました。

要約前イメージ

■明治・大正■

明治2年(1869年)に開拓使が設置され、初代長官に鍋島直正が、判官に島義勇や岩村通俊らが任命されました。

また、蝦夷地は北海道と改称され、石狩に本府建設の準備を命じられた島義勇らは、本府地の選定を開始しました。その後、栗久延通禧や黒田清隆らが視察に訪れ、札幌への本府建設が決定されました。黒田清隆は、開拓顧問にホーレス・ケブロンを始めとして、エドウィン・ダンなどの多くの外国人技師らを雇い入れ、先進国の近代的な農工業の知識や経験、専門技術などを受け入れることにより、開拓の革新を図りました。



明治30年(1897年)の繁華街(南1西3) <資料>札幌市

明治9年(1876年)には、現在の北海道大学の前身である札幌農学校が開校し、マサチューセッツ州立農科大学からウィリアム・クラークを教頭として迎えました。また、明治19年(1886年)には、北海道庁が札幌に設置され、初代長官には岩村通俊が命ぜられました。

大正11年(1922年)8月1日には市制が施行され、当時の人口は127,044人(戸数22,915戸)、面積は約24㎢でした。

■平成・令和■

人口の増加などを受け、平成元年(1989年)に白石区と西区を分区し、それぞれ厚別区と手稲区を設置しました。また、平成9年(1997年)には豊平区を分区し、清田区を設置したことにより10区体制となり、平成27年(2015年)には人口が195万人に達しました。

市民の生活意識や価値観が多様化する中、札幌コンサートホール(Kitarara)や札幌ドーム、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)や札幌市民交流プラザが整備されるなど、市民生活の質的な充実が図られてきました。

また、さっぽろ雪まつり、国際教育音楽祭であるパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)、YOSAKOIソーラン祭りなども、現在では国際的なイベントに成長しています。



札幌ドーム <資料>札幌市



パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF) <資料>札幌市

※記載内容を中学生向けに要約した原稿を作成し、見やすく分かりやすくデザインする作業は受託者が実施(以下スライド同様)

魅力・特徴(ビジョン編9～23ページを一部抜粋の上で要約)

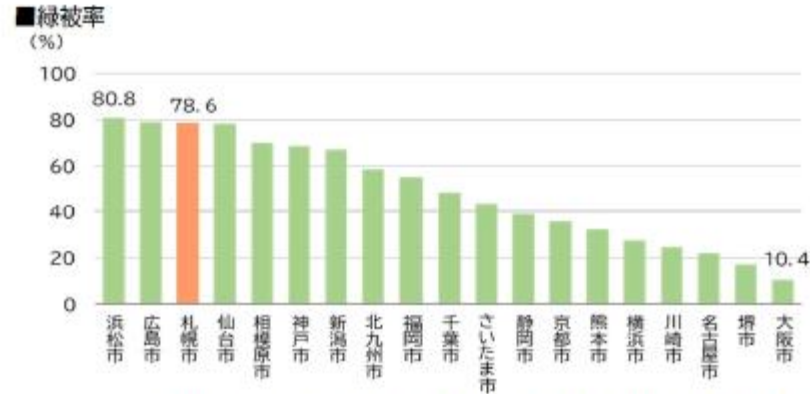
委託者と受託者で協議の上、抜粋箇所や記載ボリュームを調整予定

要約前イメージ

(2) 豊かな自然環境

① みどり豊かな自然

石狩平野の南西部に位置し、豊平川を始めとする多くの河川が流れ、市街地の周囲には豊かな自然環境が広がり、政令指定都市の中でも高い緑被率¹⁰となっています。



<資料>国土交通省「令和2年度都市緑地の保全及び緑化の推進に関する施策の実績調査」
※数値不明の都市を除く政令指定都市比較を記載



豊平川 <資料>札幌市

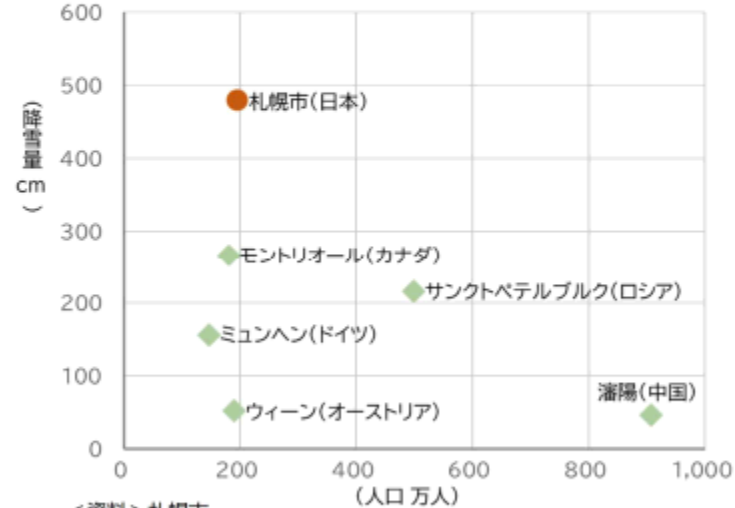


薄岩山から見た市街地 <資料>札幌市

② 変化に富んだ気候

気候は、夏は爽やかで過ごしやすく、冬は積雪寒冷であるのが特徴で、四季の変化が鮮明です。札幌市は、年間約5mもの降雪がありながら190万人を超える人口を有する、自然と都市機能が共存する世界に類を見ない都市であるといえます。

■世界の各都市の人口と降雪量



<資料>札幌市

※ 人口と降雪量の計測年は都市によって異なる(札幌市の人口は令和4年現在、降雪量は平成3年(1991年)から令和2年(2020年)までの平均としている。)。人口が100万人以上で降雪地域に位置する世界の主要都市との比較

人口・社会情勢(ビジョン編34～35, 42～46ページを要約)

① 人口

札幌市の人口の自然動態¹⁶⁾は、死亡数の増加などを受け、平成21年(2009年)以降は出生数を死亡数が上回る「自然減少」となっています。一方、社会動態¹⁷⁾は、市外からの転入者数が市外への転出者数を上回る「社会増加(転入超過)」が一貫して続き、社会増加数が自然減少数を上回ることによる人口増加が続いてきましたが、これまで増加の一途をたどってきた札幌市の人口も減少局面を迎えています。

また、65歳以上の高齢者人口は、今後も増加し続け、2040年代にはピークを迎えることも見込まれています。加えて、令和2年(2020年)の合計特殊出生率¹⁸⁾は1.09となるなど、少子化が進んでいるほか、就職や転勤を主な理由として20歳代の若年層の道外への転出超過傾向も続いており、生産年齢人口は今後更に減少し、推計では2040年代に100万人を割る見込みもなっています。

このような人口構造の変化が予想される中、今後は、合計特殊出生率の上昇や20歳代の若年層の道外への転出超過の解消に向けた取組を推進していくことが求められています。

■札幌市の人口動態



■札幌市の人口の将来見通し



※ 各年10月1日現在。四捨五入により合計が一致しない場合がある。

(5) 都市のリニューアル

昭和47年(1972年)の第11回冬季オリンピック競技大会の開催を契機として、地下鉄や区役所などの公共施設が集中的に整備されたほか、都心を中心に民間ビルなどが多く整備されましたが、そこから約50年が経過した現在では、当時形成した都市基盤の老朽化が進んでいます。

要約前イメージ

こうした中、札幌市は令和12年(2030年)のオリンピック・パラリンピック冬季競技大会の国内候補地に内定したほか、令和12年度(2030年度)末には北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業が予定されており、経済圏域や交流人口の拡大などを通して人の流れや物流が大きく変化していくことが見込まれています。

これらに合わせて、民間開発の動きが更に活発化することから、このような機会を最大限に活用し、投資を促しながら、都市のリニューアルを進めていくことが求められています。

加えて、今後のまちづくりを進めるに当たっては、官民のパブリックスペース(街路、公園、広場、公開空地¹⁹⁾など)を居心地が良く歩きたくなる人中心の空間として活用することにより、心身の健康面での効果はもとより、人と人が出会い、交流することができる機会の創出という社会面での効果も生み出し、生活の質の向上に取り組んでいくことが求められています。

また、公共施設のリニューアルに当たっては、総量の適正化と機能向上だけでなく、PPP/PFI²⁰⁾手法の導入などの民間活力の積極的な活用も図りながら、民間施設との複合化を始め、利便性やコスト、収益性の観点なども考慮する必要があります。



北海道新幹線 H5系 <資料>JR北海道



札幌駅交流拠点北5西1・西2地区における再開発のイメージ
<資料>札幌駅交流拠点北5西1・西2地区市街地再開発準備組合

都市像・重要概念(ビジョン編52～54ページを要約)

重要な部分なので、他のページと差別化を図り、丁寧な説明&分かりやすく興味を抱かせる仕掛けを入れる

<都市像(案)>
「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

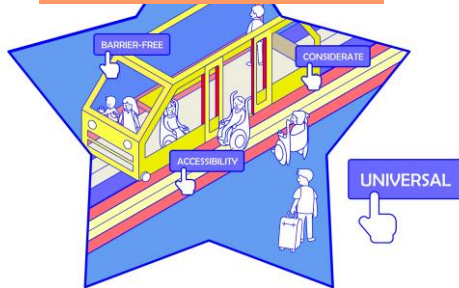
動くまちのイラスト(画像データは委託者より提供)

キャラクターによる説明

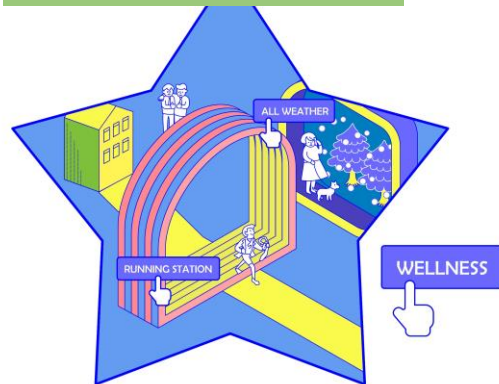
〇〇~~だよ!



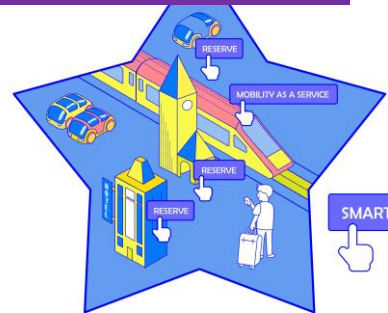
ユニバーサル(共生)



ウェルネス(健康)



スマート(快適・先端)



クリックしたら説明ページに飛ぶ

スマート(快適・先端)

「誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会」の実現。
先端技術の活用などを通じて、まちの魅力・快適性を高めていること。

- <プロジェクトの三本柱>
プロジェクト1①行政のデジタル改革
②地域社会のデジタル改革
③人材育成・産業競争力の強化
プロジェクト2①ゼロカーボンの推進
②雪との暮らし(共生)
③雪の利活用



プロジェクト(戦略編(案)キッズコメント3~13ページを要約)

第2次戦略ビジョン「戦略編(案)」キッズコメント用説明資料はこちら↓

https://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/vision2/documents/09_kids.pdf

5つの重要PJごとに説明ページを作成

違いを認め合おう！ユニバーサル(共生)プロジェクト

ユニバーサル(共生)とは

誰もがお互いに違いを認め合い、いろいろな人がいるということが、まちの良さにつながっていること

みんなが違いを認め合い、支え合って、それがまちの強みになるといいよね！



ユニバーサルの実現に向けて札幌市が力を入れて取り組むこと

誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設などの整備
～移動経路・建築物～

施設や道路、公園などのバリアフリー化を進めて、お年寄りや障がいのある人も使いやすくするよ

当事者への支援と情報発信の充実
～制度・情報～

障がいのある人など困りごとを感じる人への支援やバリアフリー情報の発信を充実させていくよ

心のバリアフリーの浸透と誰もが自分らしく活躍できる環境の整備
～意識～

多様な違いを尊重して、相手の立場になって考えることができるように意識を変えていくことや、誰もが地域や社会で自分らしく活躍できる環境を整えていくよ

10年後、こんな札幌を目指します！

バリアのない すべての人が暮らしやすいまちへ

道路や入口に段差がなくて、お年寄りや車いすの人も入りやすい！

どの季節でも快適に乗り継ぎできる環境の整備が進んでいる！



わかりやすい案内サインでエレベーターの場所がすぐわかる！

みんなが年齢や国籍、障がいの有無などの違いを理解し、支え合っている！

ユニバーサルが実現すると、どんないいことがあるかな？
実現のために、みんなができることってなんだろう？

レポート作成の説明(第1次戦略ビジョン副読本7ページを参考に作成)

第1次戦略ビジョン副読本はこちら↓

<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/vision1/documents/hukudokuhon-r4.pdf>

7

レポート作成の手順



目的

札幌の現状や将来の見通しなどについて調べ、気付いたこと、考えたことをレポートにまとめます。さらに、札幌をよりよいまちにしていけるためには何をすれば良いのか、どんなことに自分たちが関わることができるのかを考えます。

上記のことを達成するためには、あいまいなテーマではなく、そのテーマの中でも特にどのような内容を扱いたいのか具体的に考える必要があります。

(1) テーマを選択しよう

3つのテーマから特に気になったテーマを選択し、そのテーマを選択した理由を記載しよう。(以下の目指すまちの姿の例を参考に考えてみよう。)



3つの重要概念または5つの重要PJを
テーマにすることで検討中
(記載内容の詳細は委託者より指示)

(2) 資料を読み取ろう

選択したテーマに関連する資料(5ページと8~18ページ)の中から、特に注目した資料と、その資料から読み取ったことを記載しよう。

(3) 札幌市の将来の課題を考えよう

(2)の資料から読み取ったことや、みんなが知っている札幌の現状などから将来の課題などを考えよう。

(4) 課題を解決する取組を考えよう

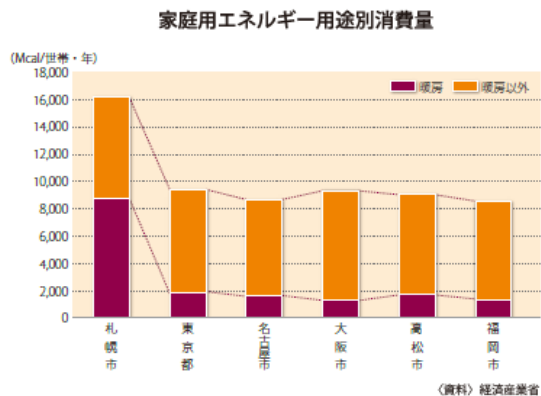
(3)で考えた課題を乗り越えていくためには、どのようなことに取り組んでいくべきなのか、考えよう。

(5) よりよいまちにしていけるためにはどうすればよいか考えよう

将来の札幌をよりよいまちにしていけるためには何をすればよいか、また、どんなことに自分たちが関わることができるのかも考えよう。

資料(グラフ)(第1次戦略ビジョン副読本8～18ページを参考に作成)

23 家庭のエネルギー使用状況 (平成14年度)



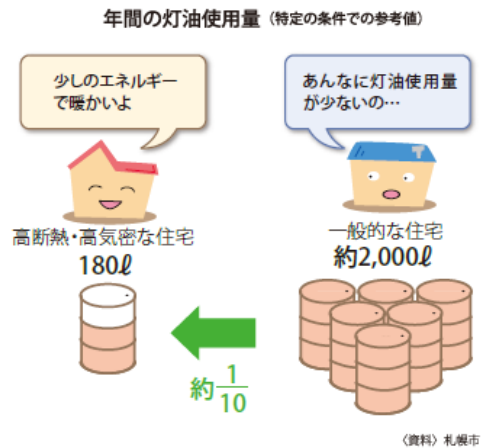
ここに着目!

冬のエネルギー使用量
に注目してみましょう。

演習のテーマに関連したデータやグラフを掲載予定
グラフ数は計30個程度を想定
「地域」「経済」「環境」等のカテゴリ別にページを分けて掲載することを検討中

※元データは委託者より提供
グラフは受託者が作成しページに掲載

24 一般的な住宅と高断熱・高気密住宅※の比較



用語解説

高断熱・高気密住宅

一般的な住宅よりも断熱材を多く入れたり、気密性を高めることで、例えば冬には、室内の暖かい空気を外に逃げにくくした住宅

資料(動画)



本市公式youtubeにアップしている第2次戦略ビジョンイメージ動画のリンクを掲載

動画はこちら↓

<https://www.youtube.com/watch?v=M2seJd4sIoI>

※その他の動画も追加の可能性あり